

第1回(2019)中等日本語教育授業教案コンテスト

教 案

【注意事項】

※項目は全て埋めてください。

※実際のクラスを想定しながら、学生に対する指示や説明、やり取りなど詳しく書いてください。

(授業時間は、1コマ 40～45 分)

※教案は日本語で書いてください。

※特定の教科書を使用していない場合は、PPT 等の使用教材もお送りください。

使用教科書: 新版標準日本語初級上 第 4 課 (全 5 コマの内、本教案は 1 コマ目) 1 コマ 45 分

(例) 第 5 課の授業を 7 回に分けて、この授業を 3 回目にする場合。(第 5 課 全 7 コマの内、本教案は 3 コマ目)

【要選択】(高校・中学) 1 年 クラスの人数 12 人

【要選択】 第一外国語 第二外国語 課外活動 その他()

日本語学習歴 0.5 年

この授業の到達目標

1. 生徒は文法:「名(場所)に 名(物/人)が あります/います」の使い方を習得する。
2. 生徒は場所や方位を表す単語の意味と読み方を習得する。

この授業の学習項目

1. 文法「名(場所)に 名(物/人)が あります/います」
2. 場所や方位を表す単語
3. より詳しく位置を表す言い方:「名(場所)の 名(方位)に 名(物/人)が あります/います」

時間	段階 (授業の 流れ)	練習・活動の内容(詳しく書いてください)	練習・活動の目的	注意点・ 使用するもの
2 分間	復習と 導入	T: 皆さん、おはようございます。 S: 先生、おはようございます。 T: これはなんですか。 S: それはかばんです。 T: いいですね。A さん、かばんはどこですか。 S: (A さん) かばんはそこです。 T: よくできました。B さん、それはなんですか。 S: (B さん) これは本です。 T: 本はどこですか。 S: 本はここです。 T: はい、よくできました。第三課は場所を表す「こ	1. 生徒とのやりとりで、 すでに学んだ内容を提 示し、復習する。 2. 今日の授業内容を導 入する。	

		こ、そこ、あそこ」について勉強しました。そして、皆さんは先のように、簡単に物の位置を表現することができました。では、より詳しく物の場所や位置を表すとき、どう言いますか。今日の授業で一緒に勉強しましょう。頑張りましょう。 まずは基本課文の録音を聞きながら、存在に関する文をマークしましょう。		
18 分 間	文法と場所を表す単語について勉強する	生徒は「基本課文」の録音を聞き、存在に関する文をメモする。そして、メモした内容を発表する。 T:どんな特徴がありますか。PPT を見ながら、考えてみてください。「に」と「が」の前の言葉は何を表しますか。隣の人とグループになって、話し合ってください。 PPT での例文: ○ 部屋に 机が あります。 ○ ここに 本が あります。 ○ 箱に 眼鏡が あります。 ○ かばんに ノートが あります。 生徒は自分の発見や理解を話す。 教師は足りない部分や間違っているところを補充する。そして、生徒を導き、「名(場所)に 名(物)が あります」という文法の形を導き出す。 T:皆さん、よくできました。では、次の文はどうでしょう。さきのとどこが違いますか。 PPTでの例文: ○ 部屋に 猫が います。 ○ 公園に 子供が います。 ○ 教室に 学生が います。 ○ あそこに 犬が います。 S:ここは「います」。 T:いいですね。なぜここで「います」を使って、さきは「あります」を使いますか。 生徒は自分の考えを言い出す。もし出来なかったら、教師はヒントを出す:「が」の前の名詞を比較してください。 生徒の説明を補充し、文法の形を固定する。	1. 教師が直接文法を教えるのではなく、質問を出すというかたちで、生徒自分で、またはグループで考えることによって、まとめ、分析、推理、論理的思考能力を高める。(【核心素養: 思維品質】) 2. 生徒が例文によって、自分で「あります」と「います」の違いを分析する。(【核心素養: 思維品質】) 3. グループで練習することにより、文法の使い方と新出単語を定着させる。(【核心素養: 言語能力】)	基本課文の録音、ppt、カード

		「名(場所)に 名(物)が あります」 「名(場所)に 名(人、動物)が います」 56 ページの「建築施設」を一緒に見ながら、生徒がよく接触する言葉だけ勉強する。 練習1:(カードは付録1) 生徒 12 人を三つのグループに分ける。 56 ページの名詞(場所)や学んだ名詞(物/人)をカードに書き、各グループに同じの 24 枚のカード(場所 12 枚、物/人 12 枚)を配る。 学生は二列のカードから一つずつ抽出する。グループ全員はカードを見て、文を作る。最初に作り出した学生は1点をつける。練習1が終わる時に、各グループで点数が一番高い学生に評価する。		
8分間	方位を表す単語について勉強する	T:皆さん、この図の中で、どこに猫がいますか。(図は付録2) S:机にいます。箱にいます。 T:いいですね。でも、もっと詳しく説明するとき、たとえば、机のどこにいますか？箱のどこにいますか？を答えるとき、何を使わなければなりませんか。 S:方位名詞。 T:そうですね。次は方位名詞について勉強しましょう。 生徒は方位名詞を読む。 練習2: 1) 生徒はカードを見て、方位名詞を読み出す。 2) 教師が方位を指す、生徒が方位名詞を言う。 3) 生徒は指示を聞き、正しい方位を指す。	日常生活で場所を言うときよく方位名詞を使うから、活用できる、役に立つ日本語を生徒に教える。	方位名詞のカード
15分間	より詳しく位置を表す言い方について勉強する	T:では、皆さん、方位名詞を使って、猫はどこですか？先生に教えてください。 S1:机の上に猫がいます。 S2:箱の中に猫がいます。 T:そうですね。つまり、さきの文法のかたちを補充すれば？ S:「名(場所)の 名(方位)に 名(物/人)が あります/います」 T:よく出来ました。褒美としてゲームをしましょう。	1. 生徒は方位名詞と最初学んだ基礎文法を整合し、より詳細な文法のかたちをまとめる。(【核心素養:学習能力】) 2. 生徒が協力して文を作ることや「生徒—生	ゲーム「モノ探し」で使われる十のモノ

		練習3: 「モノ探し」 教室にパソコン、カメラ、辞書、雑誌、傘、新聞、ラジオ、時計、猫、犬(猫と犬は写真で示す)が隠されています。見つけ出しましょう。 ● 先の三つのグループはそれぞれ行動する。 ● 見つけたら、具体的な位置を説明する文を書く。(モノは取らないで、そのままにおいてください) ● 探す時間が終わったら、モノ探しの結果を発表する。ほかのグループは発表するグループに点数をつける(正しい文に1点)。点数が一番高いグループは評価する。	徒」評価によって、協同学習を実現する。(【核心素養:学習能力】) 3. 実的な場面をつくり、生徒に日本語を運用させる。(【核心素養:言語能力】)	
2 分間	まとめと宿題	生徒に今回の授業の内容をまとめさせ、足りない部分を補充する。 宿題:生徒は自分の部屋の写真を取って、説明する文を書く。次の授業はグループ内で発表した上で、グループごとに一人を選んで、クラスで発表する。	日本人の部屋の様子と比較する素材となる(【文化素養】)	
工夫点・アピールポイント(どの部分に力を入れて作成したか、どの部分に注目してほしいか など) ● 《普通高中国語课程标准》の「国語学科核心素養-语言能力、文化素養、思维品质、学习能力」に基づいて、デザインした。 ● 「教科書を教える」ではなく、「教科書で教える」理念のもとで、教材を整合し、漸進的な授業をデザインすることに工夫した。 ● 「Can-do」を目標に、生徒が自ら学べる、またはグループ活動や協働学習を通して、日本語を活用できる。				
この教案の中で、研修会で学んだことを活かした部分 ● 「国語学科核心素養」を貫くこと。 ● 導入に提示される内容は学生に身近なもの、視覚情報を使う導入すること、文法が使えるようになるにはインプット練習(課文の録音を聞くこと、方位名詞を読むこと、または練習2)やアウトプット練習(練習1、練習3)をデザインしたことは19年春の教師研修会で藤井先生の講義から学んだ文法の教える方。				

※2 ページ以上になってもいいですが、項目は変更しないでください。

付録1： 練習1で使うカード

場所	映画館	体育館	美術館	博物館	図書館	本屋	動物園	公園	駅	コンビニ	レストラン	学校
物/人	辞書	雑誌	写真	眼鏡	傘	新聞	中国人	犬	猫	お母さん	お父さん	学生

付録2：

